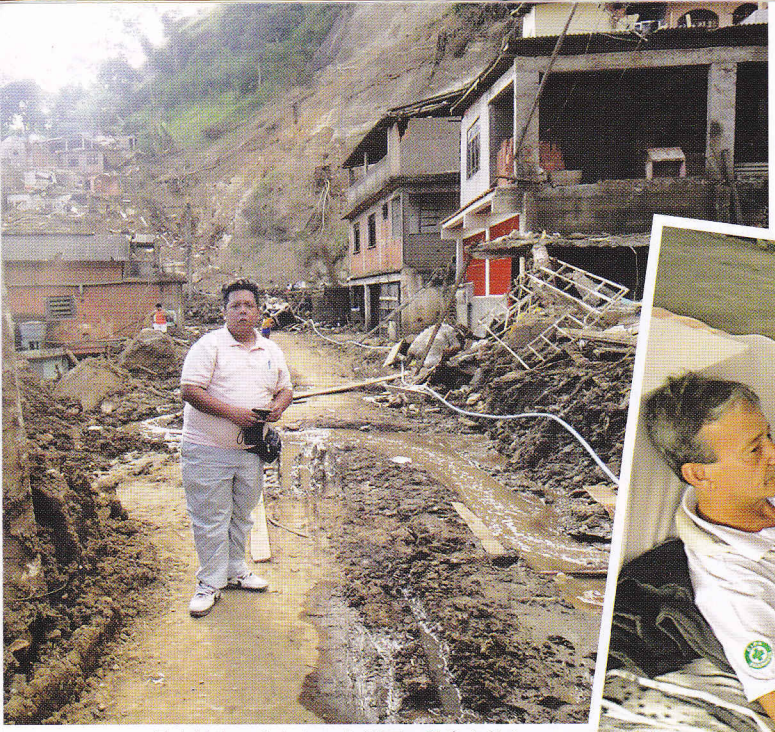

最も被害の大きかった地区。異臭を放ち、汚水が流れていた

被災した住民に声をかける譚さん

行政からの給水を受ける人々

アムダ・総社市合同ミッション

ブラジル洪水被害への緊急支援

被害やニーズの把握が任務

多文化共生推進員の譚俊偉さんをブラジルへ派遣

市とアムダは、台風による豪雨で甚大な洪水被害を受けているブラジルのリオデジャネイロ州での緊急支援活動のため1月18日、市職員とアムダ本部職員1人ずつを派遣しました。

同州では1月11日からの豪雨により、洪水や地滑りによる死者が870人を超え、約3万5000人が避難。同国では過去最大規模の惨事と伝えられています。派遣は、平成21年6月に両者が締結した「多文化共生に関する協定」に基づき、合同ミッションとして決定。通訳として多文化共生推進員（市嘱託職員）の譚俊偉（タンシュンワイ）さんと、アムダ本部職員で看護師の石岡未和さんが現地に入りました。

2人は約2週間、被災者をはじめ、ブラジル赤十字や病院などからの聞き取りで支援のニーズを調査。2月5日に帰国した譚さんは、「大きな石がごろごろとし、建物は壊れ、悲惨な状況。被災者の心のケアや感染症への予防などが課題です。避難所も設営され、ブラジル赤十字社が巡回診療を行っています」と。当面、緊急の医療支援の必要性は高くないとの報告でしたが、相互扶助の精神での国際貢献の意味は大きいものがありました。

〔平成23年2月10日現在〕

■譚俊偉さんと石岡未和さん

譚俊偉さん（左端）と石岡未和さん（右端）は1月18日、ブラジルに向け岡山駅を出発した。譚さんは「母国の災害に心を痛めている。国の仲間のためにできる限りの支援活動をしたい」、石岡さんは「アムダがはじめて入る地域。譚さんの力を借りて調査し、支援の体制を整えたい」と話した。